

2020年3月1日(日)朝10:10~

主の降誕節第9、自由交歓会等

3月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題: **わたしが求める**のは、

憐れみである(7節)

聖書: **マタイ 12章1~8節**

<口語訳>

新約聖書17~18頁

マタイ 12章1~8節

<新共同訳>

新約聖書21~ 頁

マタイ 12章1~8節

<新改訳第3版>

新約聖書21~22頁

マタイ 12章1~8節

<塚本訳>

新約聖書99~100頁

主題: **主イエス様から賜った聖霊の導き**

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。

◇本日の**マタイ12:1～8**は、「**わたしが求めるのは、憐れみである(7節)**」と、**御子イエス・キリスト様**が仰せになるように、**ユダヤ人指導者**は、**律法の定めを厳格に守るために**、**安息日でも許されていた例外規定を見落とし**、**主の弟子たちが、空腹のゆえに麦穂を摘まんで食べたことを脱穀作業と非難したのに対して**、**Iサムエル21:1～7**で、**ダビデが空腹の時、神にささげる『供えのパン』を安息日に食べた記事を引き合いに出し、律法違反にあらず、神の憐れみを求めるように語られたのです。**

⇒教会も、1つの組織ですから、規則を備えています。納骨堂規定などのように、例外枠があり、協議して決めることもあるのです。

⇒主の思いは、**神の律法**の背後には、**イスラエルの背信への憐れみ**があったのです。

本論；

◇本日、**マタイ書12章1～8節**から主の**使信**に

思い・心νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ12章1～8節**；使徒**マタイ**は、**神の御子 イエス・キリスト様**が、「**わたしが求めるのは、憐れみである(7節)**」と言われたみことばで、弟子たちが空腹のため、麦の穂を摘んで食べたことを**神の律法違反**にあたらず、**主の弟子たち**が食をも惜しんで労苦してくれたと「**励まして**」おられるのです。

◇**12:1～8節**；塚本訳◆**安息日に穂を摘む**

「1 そのころ、ある安息日にイエスは麦畑の中を通られた。弟子たちは空腹を覚えたので、穂を摘んで食べ始めた。

2 パリサイ人が見てイエスに言った、「あなたの弟子は、あんな、安息日にしてはならぬことをしている。」

3 イエスが言われた、「あなた達は、**ダビデ(王)**と**供の者**とが空腹の時に何をしたか、(聖書で)読んだことがないのか。

4 ——彼が神の家に入って、ただ祭司のほかはだれも、自分も**供の者**も食べてはならない『供

えのパンを』(彼らと)食べたことを。

- 5 また、祭司は安息日に宮で(いろいろな務めをして)安息日を犯しても罪にならぬことを、律法で読んだことがないのか。
- 6 わたしは言う、(ダビデ王よりも、祭司よりも、)宮よりも大きい者が(今)ここにいる。
- 7 もしあなた達に、『わたしは憐れみを好み、犠牲を好まない』という(神の言葉の)意味がわかっていたなら、罪もないこの人たちを(安息日違犯だと言って)咎め立てしなかったであろうに。
- 8 (わたしの弟子たちに罪はない。)人の子(わたし)は安息日の主人であるから。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**12:1~2節**；「そのころ、ある安息日にイエスは麦畑の中を通られた。弟子たちは空腹を覚えたので、穂を摘んで食べ始めた(1)」、「パリサイ人が見てイエスに言った、『あなたの弟子は、あんな、安息日にしてはならぬことをしている』(2)」と、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」が、「主の弟子たちの行為を見て」、「あんな、安息日にしてはならぬことをしている」と、「非難した」のです。

- ⇒「**わたしが求めるのは、憐れみである(7節)**」と、主はいわれましたが、**ユダヤ人指導者の「軛」**は、申命記23:25の規定をよく知っており、ルカ6:1で、弟子たちが麦穂を手で擦っていたのも見えていました。
- ⇒彼らが、「安息日にしてはならぬことをしている」と訴えたのは、**御子イエス・キリスト様**を救い主と認めない**ユダヤ人指導者・パリサイ人**の宗教論争でした。祭司は安息日に燔祭、修恩祭、罪祭、愆祭を主の食物としてささげる事が赦されていましたが、主には、その資格がないと、**ユダヤ人指導者・パリサイ人**は、考えていたのです。
- ⇒**ユダヤ人指導者**らは、**御子イエス・キリスト様**を最後まで信じせず、当時の支配者ローマの手によって、十字架の死を背負わせたのです。
- ⇒弟子であったイスカリオテのユダも、権力で、ローマから解放する救い主を期待し、勝手な妄想を抱き、失望し、自害しました。
- ⇒私たちも、真実を見極める知恵をもって、主を礼拝し、主の包み込む愛を受け、信仰の仲間を大事に生きたいと願います。
- ⇒主と罪の赦しと恵みの「**軛**」を負って。

◇**12:3~8節**；「イエスが言われた、「あなた達は、ダビデ(王)と供の者とが空腹の時に何を「——彼が神の家に入って、ただ祭司のほかはだれも、自分も供の者も食べてはならない『供えのパンを』(彼らと)食べたことを(4)」、「また、祭司は安息日に宮で(いろいろな務めをして)安息日を犯しても罪にならぬことを、律法で読んだことがないのか(5)」、「わたしは言う、(ダビデ王よりも、祭司よりも、)宮よりも大きい者が(今)ここにいる(6)」、「もしあなた達に、『わたしは憐れみを好み、犠牲を好まない』という(神の言葉の)意味がわかっていたなら、罪もないこの人たちを(安息日違犯だと言って)咎め立てしなかったであろうに(7)」、「(わたしの弟子たちに罪はない。)人の子(わたし)は安息日の主人であるから(8)」と、「**神の御子イエス・キリスト様**」は、①「Iサムエル21:1~7」から**ユダヤ人のそうんユダヤ人尊敬する「ダビデ」**が、安息日に「**神の家の供えのパン**」を食べ、供の者も、食べたと言い、②「また、祭司は安息日に宮で(いろいろな務めをして)安息日を犯しても罪にならぬことを、律法で読んだことがないのか(5)」、「わたしは言う、(ダビデ王よりも、祭司

よりも、)宮よりも大きい者が(今)ここにいる(6)」、
「もしあなた達に、『わたしは憐れみを好み、犠牲を好まない』という(神の言葉の)意味がわかっていたなら、罪もないこの人たちを(安息日違犯だと言って)咎め立てしなかったであろうに(7)」、「(わたしの弟子たちに罪はない。)人の子(わたし)は安息日の主人であるから(8)」と、「弟子たちは」、「律法違反をしていず」、主が求めておられるのは、「**憐れみ**」だと、答えて下さったのです。

⇒ **神の御子イエス・キリスト様**は、いのちを狙っている敵対者を前にしても、聖書(I サムエル21:3～6、申命記23:25)を示しつつ、**神のみことば**に聴くことを求め、①「(ダビデ王よりも、祭司よりも、)宮よりも大きい者が(今)ここにいる(6)」、②「『わたしは憐れみを好み、犠牲を好まない』という(神の言葉の)意味がわかっていたなら、罪もないこの人たちを(安息日違犯だと言って)咎め立てしなかったであろう(7)」、③「(わたしの弟子たちに罪はない。)人の子(わたし)は安息日の主人である(8)」と、ご自身の真の権威を示されたのです。**ユダヤ人指導者**の思い違いを愛を持って導かれました。

- ⇒安息日は、シナイ山でモーセを通して示され、「安息の地」を目指していきるためであり、主の安息の中に入れられるためでした。
- ⇒安息日は、すべての労苦を解かれる週の終わりの日の土曜日でした。罪赦され、すべての労苦・悩みから解放されて、休む日です。
- ⇒**SY師**が、真の安息は、月曜日も必要なのです。主日は、主の初めに主が復活されたので、私たちも、心も、からだも復活に与らせていただく祈りと願いが込められた日です。
- ⇒主日は、主に聴く恵みとともに主に任命された「王、祭司、預言者」として、派遣される(祝禱)日でもあります。
- ⇒「**わたしの軛**は負いやすく**軽い**(30)」、「**わたしの軛を負う**」、しかも、「**讚美**」をもって「**軛**」を「負い」、「**疲れている者、重荷を負っている者はだれでも、わたしの所に来なさい、休ませてあげよう**」、「**わたしは心がやさしく、高ぶらないから、わたしの軛を負ってわたしの弟子になりなさい、そうすれば『魂の休息が得られよう**」、「**わたしの軛は甘く、わたしの荷は軽い**」との主のみことばを聴きながら歩めるのです。
- ⇒聴き従えるお方がいることが、幸いです。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日のマタイ12:1～8は、「わたしが求めるのは、憐れみである(7節)」と、御子イエス・キリスト様が仰せになるように、ユダヤ人指導者は、律法の定めを厳格に守るために、安息日でも許されていた例外規定を見落とし、主の弟子たちが、空腹のゆえに麦穂を摘んで食べたことを脱穀作業と非難したのに対して、Iサムエル21:1～7で、ダビデが空腹の時、神にささげる『供えのパン』を安息日に食べた記事を引き合いに出し、律法違反にあらず、神の憐れみを求めるように語られたのです。

⇒教会も、1つの組織ですから、規則を備えています。納骨堂規定などのように、例外枠があり、協議して決めることもあるのです。

⇒主の思いは、神の律法の背後には、イスラエルの背信への憐れみがあったのです。

⇒**神の律法(安息日規定)**は、①真の安息とは何か、②安息日の何が問われているのかです。

⇒「**<新改訳2017>マルコ 2:27** そして言われた。「安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたのではありません。』」、

⇒真の安息は、主の中に生きる事であり、安息日は、人のために定められたのです。

⇒人は、安息日のために創造され、今も、「主(わたし)は安息日の主人である(8)」です。人(**ユダヤ人指導者・ユダヤ人自分**)が、自分やほかの人の主人であってはならないのです。

⇒ローマ14:5～8;口語訳

5 また、ある人は、この日がかの日よりも大事であると考え、ほかの人はどの日も同じだと考える。各自はそれぞれ心の中で、確信を持っておるべきである。

6 日を重んじる者は、主のために重んじる。また食べる者も主のために食べる。神に感謝して食べるからである。食べない者も主のために食べない。そして、神に感謝する。

7 すなわち、わたしたちのうち、だれひとり自分のために生きる者はなく、だれひとり自分のた

めに死ぬ者はない。

- 8 わたしたちは、生きるのも主のために生き、死ぬのも主のために死ぬ。だから、生きるにしても死ぬにしても、わたしたちは主のものなのである。